

本を選ぶ

NO. 492 2026年(令和8年)5月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>椅子はおもしろい了

●大学教員ノート 第15回

—移動図書館は心のなかに生き続けている—

●北の公民館図書室から 続

—新人司書の奮闘—



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

椅子はおもしろい了

木工に関心が向いた頃、DIYが流行り始めたのもあって、郊外のホームセンターが充実して、都心ではハンズという手作り用品専門店も登場した。『KAKIのウッドワーキング』（柿谷誠 著／情報センター出版局／1982年）に出会ったのもそんな頃だった。アマチュアを念頭においた啓蒙書のような位置付けだろうか。柿谷が作ってみせるロシア産ベニマツを使った本格的な家具を、いつか作ってみたいと思うのだがベニマツという材料が残念ながら入手できずにいる。

久しぶりに柿谷誠の本を手にとって驚いた。その柿谷が自著の冒頭に、スペインのアンダルシア地方の小さな村グアディスまで白木の椅子つまり「ゴッホの椅子」の制作現場を見に行くと書いているではないか。美術学校の学生時代に美術雑誌で読んだ小さな記事がずっと頭の片隅にあったという。プロとして家具を手がけるきっかけになったとも。こちらも柿谷がこんな経緯で「ゴッホの椅子」につながっていたと今頃気づくなんて。

陶芸家の濱田庄司が「ゴッホの椅子」を追い続けて、自らスペインから輸入し百貨店での販売にまで関わった話は前号でふれたが、濱田はもうひとつイギリスの民衆家具にも強い関心を

持ち続けた。ウインザーチェアだ。おそらく出会いはバーナード・リーチに誘われてイギリスに滞在していた頃だろう。（『ゴッホの椅子：人間国宝・黒田辰秋が愛した椅子。その魅力や歴史、作り方に迫る』久津輪 雅 著／B5変形判／誠文堂新光社／2016年）

ウインザーチェアとは、座面に張り地ではなく木の板のままで、角度のついた4本の脚は座面の裏側に差し込まれ、背も数本の棒材が座面に差し込まれて固定された素朴で実用的な椅子だ。もとはウインザー地方で民衆家具として17世紀末頃から作られるようになったと伝わる。背の部分がコムバック（櫛型）とボウバック（弓型）の二つの基本形から出発したようだ。現代では、様々なバリエーションが登場しているが、伝統工芸というよりはパブやカフェの椅子さらには学校家具として、また工場生産品の椅子としてイギリスのみならずアメリカでも歓迎され普及していく。

イギリスではアーコール社が1950年頃ウインザーチェアの生産を手がけ人気を博したものの、ほどなく飽きられていた。

ところが21世紀に入って、ファッション・デザイナーのマーガレット・ハウエルが復刻に乗り出した。彼女自身子ども時代から学校でウインザーチェアに親しんでいたようだ。ウインザーチェアの優れたデザインや実用性に魅了されていた彼女はアーコール社にラブコールを送りコラボを実現させた。もちろん自社でも販売している。

椅子にまつわる話は興味が尽きない。（埜村太郎）

大学教員ノート 第15回

—移動図書館は心のなかに生き続けている—

石川 敬史

建物の図書館としての建設ではなく、自動車としての移動図書館に何を期待していたのか——地域の独自性や内発性に光をあて、地域で暮らし働く一人ひとりの思いに耳を傾けながら「小文字」で記録していきたい——という問題意識が本研究をはじめたきっかけである。

和光市役所、和光市図書館、そして和光市の数多くの皆様のお力添えにより、『[移動図書館をつくったまち：地域文庫、図書館、そして「やまびこ号」](#)』（石川敬史、中岡貴裕編著／郵研社／2026）を刊行させていただく機会に恵まれた。

この問題意識は、拙著の「はじめに」の冒頭に刻んだ言葉でもある。編著者の中岡貴裕さん（和光市教育委員会事務局生涯学習課）とともに、2018年度から本格的に研究を開始した。中岡さんの多大なるお力添えにより、コロナ禍を乗り越え、刊行に至るまで調査・研究を地道に積み重ねることができた——研究は一人では成り立たないことを、あらためて実感している。

実は「やまびこ号」の運転経験があるんですよ。

2016年11月3日、和光市図書館の下新倉分館が開館した。このとき、のちに本研究でインタビューや資料調査にご協力いただくことになる柳下昇さんから、ふと、こんな言葉をいただいた。開館当日には、オープニングセレモニーのほか、館内コンサートやワークショップなどが開かれた。図書館の皆さんの思いが伝わる一日であった。このオープニングイベントのひとつとして「開館記念講演会」があり、登壇のお声がけをいただいた。

大変光栄なことである。ここで「図書館のチカラ～地域の伴走者として～」と題して、和光市図書館を「移動図書館から開館した図書館」として、その歴史に触れさせていただいたことが契機となった。そして、多くの皆様との関係を築くことができた——あらためて、研究は一人では成り立たないことを痛感した。

このような場で本当に申し訳ございませんが……。



郵研社
A5判 / 並製
240ページ
税別 2,727円
ISBN : 978-4-907126-80-3

2024年10月26日、和光市図書館本館での「図書館まつり」初日である。直木賞作家で、かつて和光市に在住していた中島京子先生の講演会「わたしがこどもだったころ」が開催された。会場は満員であった。団地の自治会文庫のご経験、そして何よりも中島先生と参加者との距離の近さに、静かな熱のようなものが満ちていた。その場にいる誰もが、どこかで同じ記憶に触れているかのように、あつという間の90分であった。かつて、編著者の中岡さんとともに団地自治会文庫や親子読書会の皆様へインタビューさせていただいた記憶がよみがえった。

終了後、サイン会の長い列の最後尾に並び、ドキドキしながら順番を待った。（失礼をお許しいただきたいが……）拙著の巻頭へのご寄稿のお願いである——本を編むということは、多くの方々の関わりのなかで初めて成り立つのだと、あらためて感じた。

もちろん、いいですよ。私でよろしければ。

2024年12月1日、混雑する新大阪駅のホームであ

ったと記憶している。日本図書館文化史研究会の研究例会が大阪市内で開催され、その帰路、地下鉄で新大阪駅へ向かう國學院大學の新藤透先生とご一緒させていただいた。車内では、この日の研究例会のこと、近年の図書館史研究のこと、大学のこと、そして和光市の移動図書館史研究についてお話をさせていただいた。ちょうど、拙著の企画・構成を郵研社とともに考え、執筆を始めていた時期でもあった。日本図書館史研究を精力的に進めておられる立場から、本研究と拙著を客観的にご評価いただきたいという思いがあった——本を編むとは、多くの方々との関わりのなかで進んでいくものだと、ここでも実感した。

まずは、本書刊行・本調査にあたり、多くの皆様のご協力、ご支援を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

2026年2月28日、和光市図書館下新倉分館にて、市民図書館講座として出版記念の会を企画いただいた。当日は、市長、議員、新藤透先生をはじめ、図書館協議会委員、和光市役所の元職員、そして本研究でインタビューに応じてくださった皆様など、多くの方々駆けつけてくださった。「図書館の記憶と記録～大和町から和光市への歩みを図書館の歴史からたどる～」と題してお話しさせていただいた冒頭のあいさつである。私ばかりに光が当たってしまい、恐縮する思いであった。

編著者の中岡さんをはじめ、和光市役所・図書館の皆様、そしてインタビューに快く応じてくださった皆様こそが主役である——地域文庫、図書館、そして「やまびこ号」が私たちに残したものについて、ともに考える時間となった。

本日は、ご参加いただきましてありがとうございました。みなさまのお気持ちに深く感謝いたします。

2026年3月3日の夕方、あいにくの雨であった。紀伊國屋書店新宿本店のアカデミックラウンジにて、拙著の出版記念も兼ねて、ライター・エッセ

イストのオラシオさんとの対談の機会をいただいた。これまでにお付き合いのある親しい方々、懐かしい方々、石川ゼミの卒業生、産学連携で取り組んでいる企業の方々をはじめ、多くの皆様にお越しいただき、会場は満席となった。感謝の気持ちでいっぱいである。数々の図書館を公共交通機関のみで歩き、『[図書館ウォーカー](#)』（[日外アソシエーツ/2023](#)）を編まれたオラシオさんとの対談は、かねてから実現したいと考えていた。地域と図書館と歴史、そして自身の経験を語りあい、あつという間の90分であった——ここでもまた、地域文庫、図書館、そして「やまびこ号」が私たちに残したものについて、ともに考えることができた。

* * *

本研究を中岡さんと重ねていくうちに、当初の問題意識を大きく越え、拙著の目的として、和光市の図書館を考える契機に、そして全国各地で移動図書館を担っている方々が、その歴史と展望を考える契機になればという思いが強くなっていった。なぜならば、地域でともに生きる一人ひとりの歴史のなかに、地域文庫、図書館、そして「やまびこ号」が輝いていたからである。

移動図書館は心のなかに生き続けている

(いしかわ たかし：十文字学園女子大学)

移動図書館をつくったまち
—地域文庫、図書館、そして「やまびこ号」—

【目次】

特別寄稿 子ども文庫の記憶（中島 京子）
第1章 「移動図書館をつくったまち」の歩み
第2章 市民がつくった「やまびこ号」
第3章 地域を走る「やまびこ号」
第4章 躍動する地域文庫
第5章 団地を巡回する一日図書館「むさしの号」
第6章 図書館の開館、そして「やまびこ号」
特別寄稿 和光市の教育と図書館の歩み
（大久保 昭男）
解題 地域図書館史研究の視点（新藤 透）

北の公民館図書室から 続

—新人司書の奮闘—

鶴田 夏子

この町には図書館法を根拠とする公共図書館はなく、社会教育法に基づく公民館事業の一つとして図書室があります。勤務しているのは中央公民館内の町唯一の図書室です。

当室では、現在約14,000冊の本を所蔵しています。その内訳は、一般書が約8,000冊、児童書が約6,000冊。一般書の棚をみると、多くを占めているのは9類でその半数が日本の小説です。一方で海外小説はそれほど多くありません。それ以外の分類は3類、7類が比較的多くそれぞれ同じくらいの蔵書数となっています。

以前勤めていた東京の地域図書館と比べて驚いたのが、文庫本の少なさです。多くの図書館では文庫本を専用の棚にまとめますが、当室では冊数が限られていることもあり、単行本と同じ棚に混配しています。なぜ文庫本が少ないのかと考えてみると、この地域ならではの理由が見えてきます。当室は高齢の利用者が多く、どうしても文字の小さい文庫本は敬遠され、ゆったりと大きな文字で読める単行本が好まれます。そんな地域のニーズが、図書室の蔵書を作っているのだと感じます。

児童書は、絵本と読み物がそれぞれ3割ほどを占め、バランスよく配置されています。海外の読み物や、小中学生向けの文庫もそろえています。月に1回小学校へ朝読書用の本を貸し出しているのもそれも意識した選書をしています。

新刊案内が届かない！

これまで私は、東京の地域図書館の児童担当として、中央図書館に児童書の補充希望を出す立場にありましたが決定権限はありませんでした。今まで自館に置きたい本が選べず歯がゆい思いをした経験があるので、今は自分で本を選べる喜びを感じる一方、図書室全体の選書という責任の重さに身が引き締まる毎日です。

一番の悩みは、新刊情報の収集です。ここに来るまで当たり前にあると思っていた新刊全点案内のようなカタログや出版社の新刊情報チラシは当

室には届きません。新刊全点案内は冊子版で年間約76,000円、WEB版でも約30,000円、当室にとってはコスト面が壁となり、導入が難しい状況にあります。そのため色々なサイト、出版社のHP、新聞の書評等、幅広くチェックするのでとても時間がかかります。休日には隣市の書店まで足を運び、店内の売れ筋をチェックして動向を把握するとともに、実際に本を手に取り、内容のわかりやすさはもちろん、文字の大きさやレイアウトが利用者にとって読みやすいものか、直接確かめるようにしています。

書店もない！

町の唯一の書店が昨年4月に閉店したため、現在は隣市の教科書取扱会社の本を注文しています。地元の書店から情報を得ることが難しくなった分、私自身がより確かな目を持って本を選ぶ必要があります。蔵書の鮮度を保つことも大切な仕事の一つです。小説以外の棚を見てみると、出版から10年以上が経過した資料が多く残っていました。これは児童書についても似たような状況で、情報の古くなった実用書や、新しい版が出ている図鑑等は少しずつ入れ替えていきたいのですが、一冊の価格が高い場合は予算を思うとつい発注をためらってしまうこともあります。当室の利用者の多くは新しい小説を心待ちにされているので、限られた予算の中で、小説とそれ以外の分野をどうバランスよく揃えていくか、いつも悩みます。

購入した本の装備は私が行っていますが、ブッカーがけについては一人のボランティアさんに支えられています。いつも快く引き受けてくださる協力体制には感謝に堪えません。今年度からは嬉しい変化があります。これまで2誌しかなかった雑誌について、新たに予算を確保することができました。近隣自治体の事例も参考に、雑誌4誌を購入し、新規利用者の獲得や最新情報の提供に結びようと意気込んでいます。

(つるた なつこ：公民館図書室)

ESTRELA

■2026年5月号
No.386/5月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

〔特集〕国民経済計算の2020年(令和2年)基準改定

■最近のGDP基準改定を巡る論点/
福田 慎一 (武蔵野大学 特任教授)

■国民経済計算の2020年(令和2年)基準改定等について/
齋藤 達夫
(内閣府経済社会総合研究所 国民経済計算部企画調査課)

■SNA統計の改定メカニズムについて/
長谷川 秀司 (金沢学院大学経済学部 教授)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階
TEL: 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

Asian Wind

- アジアと日本、そして世界を繋ぐ「風」のように -
NO.4 2026 Spring

— Asian Wind —

- インドネシア「民族覚醒の母」カルティニ
- キンバ(韓国)
- 「正陽書局」
- ラオス人留学生憧れは「上海夢」
- アジアの本棚「西遊記事変」
- 港町の近代黎明期
- マカオの世界文化遺産

— 亜州之風 —

- インドネシア—
“民族覚醒之母” 卡尔蒂尼
- 桜花味
- 日语教师的专业性
- 日本の书架《藤野先生》
- 亲近自然的日本人
—从皇居看四季
- 澳门的世界文化遗产

一般財団法人 霞山会(文化事業部)

〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-47
電話:03-5575-6301 / FAX:03-5575-6306
<https://www.kazankai.org/>

人々Ⅲ 命とは何か

NHKスペシャル

私たちはなぜ「老い」や「死」を抱えるのか?

人気TVシリーズ最終章、待望の書籍化!

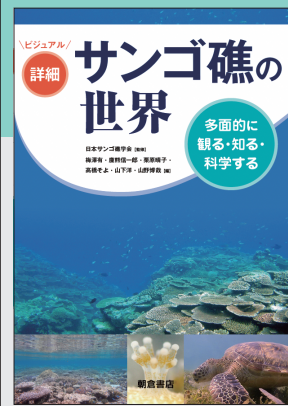


下巻
【第4集】果てしなかり細胞40億年の旅

上巻
【第2集】命の源細胞40億年ありながら命は長く

定価:各3,300円(税込)

東京書籍



日本サンゴ礁学会 監修
梅澤有・鹿熊信一郎・
栗原晴子・高橋そよ・
山下洋・山野博哉 編

サンゴ礁を体系的・
横断的・包括的に
扱った初の書籍。
現状や直面している問題・課題、
観察や研究の手法、文化的背景、
保全まで、オールカラーで
ビジュアルに解説。

B5判 192頁
定価5,280円(本体4,800円)
ISBN978-4-254-17207-2

朝倉書店

東京都新宿区新小川町6-29
〒162-8707 TEL03-3260-7631

図書館、青木海青子
山へ分け入る

奈良県東吉野村で自宅を兼ねた私設図書館ルチャ
リプロを10年間運営してきた司書が綴るエッセイ集。

1980円

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

洋書専門取次
株式会社 三善



ペンギン・リーダー 60セット
英国Penguin社発行 各60冊
全8レベルの多読リーダー



洋書読み物
セット紹介の
WEBサイトは
こちらから

ハリー・ポッターセット
魔法ファンタジー『ハリー・ポッター』原書



eigo-meisaku.com

英語名作ライブラリー



Miyoshi

〒167-0032 東京都杉並区天沼2-2-3
TEL: 03-3398-9163 FAX: 03-3398-9170

J. カッパーマン /
藤井翔太 訳

アジア哲学入門

インド、中国、日本、イスラムの古典9冊を読み解く。 3850円



D. ハリデー /
大澤 津・原田健二朗 監訳

財産を相続するということ

遺贈と正義の政治哲学 財産相続と社会正義は両立しうるのか? 5500円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

地球研叢書

総合地球環境学研究所の
研究・成果を分かりやすく伝え、
人と地球の未来を考えるシリーズ



現在 28 巻刊行、ぜひお揃えください!

定価：各 2310 円～ 3080 円 (分売可)

昭和堂

〒 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町 3-1
TEL 075-502-7500 ※価格 10%税込

中北浩爾

現代日本
政治史

The Political History of Contemporary Japan

第二次世界大戦後の内政と外交

中北浩爾 著

現代日本政治史

戦後日本の政治は、
どう形作られてきたのか?

第二次世界大戦後の内政と外交

戦後日本の政治は、どう形作られてきたのか? 占領と戦後改革、1955年体制の成立と崩壊、平成の政治改革、自公政権の解体…。政党政治を軸に国際関係と市民社会を含む三層構造から日本政治を立体的に捉える。

A5判 定価2,970円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17 <https://www.yuhikaku.co.jp/> 価格は税込

分断と反知性主義のアメリカ

知性の敗北と再建の政治経済学

廣光俊昭 [著] ● 予価2640円(税込) ● ISBN 978-4-535-54125-2

なぜアメリカでは政治的分断と反知性主義がはびこるのか。歴史的な背景からそのロジックを解明し、社会科学が果たす役割を説く。

6月中旬刊

トラウマインフォームドシステム

支援者と子どもを支える安全な組織づくり

野坂祐子 [編]

分断、否認ではなくつながり、傷つきを認めることがトラウマインフォームドな組織を作る。

● 予価2860円(税込) ISBN 978-4-535-56446-6

6月中旬刊

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4 ☎ 03-3987-8621 <https://www.nippsy.co.jp>

調べる学習百科

サグラダ・ファミリアの謎とアントニ・ガウディ



140年以上建築が続く世界遺産の謎に迫る!

140年以上も建築が続く世界遺産の「未完の聖堂」サグラダ・ファミリア。設計者ガウディの没後100年にあたり、その理由と彼が手掛けた奇抜な建築作品の謎に迫ります。

第1章 サグラダ・ファミリアをくわしく知ろう!
第2章 アントニ・ガウディの歩んだ道

● 定価: 本体3,600円+税
● A4変型判/64頁
● ISBN 978-4-265-08680-1



小学校高学年～中学生

この1冊が未来をつくる 岩崎書店 〒112-0014 東京都文京区関口 2-3-3 7F
TEL 03-6626-5080 FAX 03-6626-5085

誰もが学習するけれどよくわからない
日本の古典作品を読み解く。

背景情報・知識・資料がギュッとまとまった便利な1冊。



枕草子を知る事典

赤間恵都子 編 定価 3,520 円
(本体 3,200 円 + 税)

A5判 並製 360 頁 ISBN 978-4-490-10960-3

調べもの、
探求学習に
活用しやすい!



源氏物語を知る事典 新装版

西沢正史 編 定価 3,300 円
(本体 3,000 円 + 税)

A5判 並製 310 頁 ISBN 978-4-490-10938-2

株式会社 東京堂出版 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-17
TEL 03-3233-3741 FAX 03-3233-3746